

平成23年度 事業報告書

大慈厚生事業会

1. <経営理念>

- ①時代の変遷にともない、福祉ニーズの変化を敏感に把握し、社会の人々のために、良質な福祉サービスを提供する。
- ②いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に最善の福祉サービスを提供できるように日々研究努力する。
- ③ALL FOR ONE ONE FOR ALL

2. <基本方針>

- ・法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、人権を尊重した運営をする。
- ・各施設の基本方針を尊重する
- ・社会的に評価を得られるよう務める

3. <法人ヴィジョン>

- ①サービスの質の向上
- ②経営の強化
- ③教育システムの充実

4. <目標>

- ①職員の施設交流を行い、福祉事業に対する視野を広げ、資質の向上を図る。
→理事会の後の懇親会など職員間の交流は図られているが、視野を広げ資質の向上を図るには至っていない。
- ②地域福祉の中核としての法人の位置づけを地域にアピールする。
→児童部門：地蔵盆を開催したり、デイサービスとの交流や盲学校との交流などを行なっている。
老人部門：地域の祭りへ参加し、アピールを行なっている。また、地蔵盆などを開催する事によってもアピールしている。

5. <行事等>

| 日付 | 行事等 |
|------------|-----------------------|
| 平成23年5月17日 | 監事監査 |
| 5月21日 | 理事会・評議員会（事業報告・決算ほか） |
| 5月30日 | 資産謄記 |
| 7月27日 | 神戸市指監査（法人、母子部門、児童部門） |
| 7月30日 | 理事会（新規事業計画の件など） |
| 8月 8日 | 神戸市指監査（老人部門） |
| 12月16日 | 理事会・評議員会（補正予算ほか） |
| 平成24年3月22日 | 理事会・評議員会（補正予算・事業計画ほか） |

6. ≪総評≫

今年度、老人部門において新規事業計画を申請したが、8位という結果で認可はおりなかった。現在、神戸市の第5期計画では毎年220床程度の整備が進められるとみられるが、第6期以降の計画においては地域包括ケアの推進のため、小規模型の施設のみの認可になることが予測される。このことから、大慈厚生事業会としては第5期計画中に大規模施設の整備申請を進めたい。また、児童部門においても第4回理事会にて報告した、ハーバーランドでの分園の話が持ち上がり、法人における事業規模は拡大していく予定である。

事業規模の拡大に伴い、各部署のスタッフが増え続ける中、法人としてはガバナンスの向上が喫緊の課題となっている。そのような状況の中、各部門においてそれぞれ核となる基本方針を修正しつつ、スタッフへの浸透を進めている。

老人部門においては西神南あんしんすこやかセンターを中心に、国が示す地域包括ケアを参考として、地域の実情に合わせ、要支援・要介護高齢者に対する在宅対応レベルを底上げするように働きかけていくとともに、地域の中での特別養護老人ホーム、ケアハウスなどの役割を構築していきたい。また、高齢者のみならず地域で必要とされているさまざまなニーズを拾い上げていくことによって、社会福祉法人として社会貢献を行っていききたい。

特養においては「排泄の自立」を軸に、終の棲家としての機能を強化するとともに、OTやPTの配置をすすめることによって、地域の中での施設の役割にこたえられるようにしていきたい。また、次世代の福祉人材の育成も視野に入れつつ運営を行い、ゲストに自尊心と希望を持っていただくと同時に、安心できる空間を提供していきたい。

児童部門においては子ども・子育て新システムの状況を睨みつつ、築きあげたブランドを維持し、分園などの事業拡大を進める。また、「心がだいじ、言葉がだいじ」をモットーに生きる力を育むとともに、教育的要素も積極的に取り入れ、倫理的な躰を次世代の子供たちに継承していけるように事業を運営している。

母子部門においては社会的ニーズの変化に伴い、旧来的な母子生活施設へのニーズが減少している。そういった状況の中、業界全体で社会的養護のあり方の検討が進められ、地域の中での母子生活支援施設の役割と機能が模索されている。そのようなことも睨みながら、広域のゲストも積極的に受け入れ、ニーズの減少に対応しつつ、新しいニーズにも応えていける体制づくりをすすめたい。

上記のように各部門の基本的な運営の方向性が固まりつつあるが、建物の経年劣化に伴う大規模修繕や新規事業の申請なども同時に進んでおり、今後4年間は、それらに伴う施設整備の支出が大きくなることが予想される。また、2030年から人口の推移に伴い、介護ニーズが減っていくという問題や3年後の介護報酬の改定、児童の動態など社会的な状況も刻々と変化している。

このような状況の変化に応じて、柔軟に対応してけるような法人となるために、法人に所属するもの全員が福祉のみならず広い視野を持つように成長していきたい。そのためにも、状況に応じた方向性の修正を行い、協議を通じて共有しながら、それらを末端のスタッフに浸透するよう具体化を図る必要がある。そして、各部門の全スタッフが法人の一員であるという共通認識を持てるように今後も互いに交流を深めていきたい。又、社会全体において社会福祉法人のあり方が問われているなか、大慈厚生事業会が社会全体から求められるニーズにこたえ、他の社会福祉法人の模範となり、業界全体をリードしていくよう事業を行っていききたい。

◎大慈厚生事業会総務部

1. <基本方針>

大慈厚生事業会総務部は「ES が CS につながる」を基本方針に経営力強化・人事システム・情報システムの調整と修正および業務改善プロセスの促進を行う部門である。

2. <目標>

①理念への見識と理解を深め、共有する場を作る。

A) 理念と連動したシステムを協議する場(キャリアパス委員会【仮称】)を設置する。

→研修委員会にて、トータル人材システムの構築を行う。

B) 委員会活動と事業計画の整合性を検討し委員会の統廃合を行う。

→総務部内で検討したが、統廃合には至らなかった。

②広報に関する知識を深めテストを行い経験を蓄える。

A) 各部署の主任・管理者でマーケティングの勉強会を行う。

B) 求人広告の出し方を工夫する。

C) 地域での知名度を高める行事を企画する。

→実施されず。

③予算管理に関して事務と現場が検討し見直す場を作る。

A) 財務レポートの効果性の検討を進め見直す。

→6月、9月、11月と人件費と収入に関する財務レポートを提出。

B) 事務と現場主任が集まり検討する場(予算管理委員会【仮称】)を設置する。

→7月に開催し、9月に各部のヒアリングを行った。平成24年度も継続して実施予定。

C) 研修委員会、主任者研修において財務に関する勉強会を行う。

→7月に研修会実施、その後停滞。

3. <理事会・会議・研修会など事業>

◎会議等

| 名称 | 内容 | 計画 | 詳細(実績・時期) |
|-------------|---|---------------|--|
| 正副施設長 会議 | 理事長、総合施設長以下、各施設長および副施設長が、法人内の課題や理事会運営などを協議した。 | 毎月1回 第1水曜日 | 年11回開催 4/6、5/9、6/8、7/6、8/10、 9/10、11/2、12/7、1/13、2/16、 3/5 |
| 会計会議 | 各部経理の矛盾点、予算執行状況などを確認するため、会計会議を実施した。 | 毎月 1回 | 年9回開催 3/18、4/27、7/29、8/30、9/27、 10/28、11/29、1/27、2/27 |
| 事務・総務 部会 | 事務の効率化及び、システム化を図り、各部の情報を共有するために事務総務部会を開催した。 | 毎月 1回 | 年12回開催 4/14、5/24、6/23、7/21、8/18、 9/30、10/30、11/25、12/22、 1/20、2/23、3/27 |
| 研修委員会 | 職員がやりがいを持って業務を行えるように、研修制度や人事考課制度の見直しなどを行う事を目的に開催。 ・平成24年度より「事業戦略会議」とし、トータル人材マネジメントシステムの改善などを進める。 | 毎月 1回 | 年9回実施 5/9、6/8、7/7、8/17、9/13、 11/11、12/8、1/13、2/27、 3/13 |

◎理事会

| 名称 | 内容 | 計画 | 詳細(実績・時期) |
|-------------------|--|-----|---|
| 第1回理事会 評議員会 | 議 案 第1号議案 平成22年度事業報告の件 第2号議案 平成22年度決算報告の件 第3号議案 規定変更の件 第4号議案 定款変更の件 第5号議案 施設長選任の件 報告事項 外部監査報告など | 5月 | 5月21日 神戸市産業振興センター904号室 出席者 理 事6名 評議員10名 |
| 第2回理事会 | 第1号議案 新規事業計画の件 第2号議案 あんしんすこやかセンター 募集に伴う申込みの件 | | 7月30日ハーバー 大慈応接室 出席者：理事6名 |
| 第3回理事会 第2回評議員会 | 議 案 第1号議案 平成23年度補正予算の件 第2号議案 規定変更の件 第3号議案 定款変更の件 第4号議案 第三者委員選任の件 第5号議案 大慈保育園 園長選任の件 第6号議案 評議員委嘱の件(理事会) 第7号議案 新規事業に伴う土地購入及び 借入の件 報告事項 神戸市監査報告など | 12月 | 12月16日 総合福祉センター 第1会議室 出席者 理 事6名 評議員10名 |
| 第4回理事会 第3回評議員会 | 議 案 第1号議案 平成23年度補正予算の件 第2号議案 平成24年度事業計画の件 第3号議案 平成24年度予算の件 第4号議案 規定変更の件 第5号議案 大慈吉祥園施設長選任の件 第6号議案 評議員委嘱の件(理事会) 第7号議案 保育園分園の件 第8号議案 あんしんすこやかセンター 名称変更の件 報告事項 ベルデ玉津の件など | 3月 | 3月22日 総合福祉センター 第5会議室 出席者 理 事6名 評議員9名 |

◎研修会

| 名称 | 内容 | 計画 | 詳細(実績・時期) |
|---------------|---|----------------|--------------------------|
| 入社式 新人研修 | 新入職員が、スムーズに業務をできるよう、法人の理念について考え、理解する場、および日常業務に役立つ知識なども習得する場を提供するため、週2回の研修を実施した。 | 4月1日 ～30日 | 対象者26名 毎週2回 月・木に実施 |
| 中途採用者研修 | 年度途中に採用された職員に対して、新人研修同様法人理念などに付いて学ぶ。 | | 10/3 対象者24名 |
| ステップアップ 研修 | 次の等級へと上がる職員に対し、より深い大慈厚生事業会への理解と職務に対するスキルを身に付けてもらうためにステップアップ研修を行なった。 | 1月 2月 3月 | 対象者 6名 1月19日、20日 |

5. ≪総評≫

今年度はさまざまな事業を計画していたが、部長の不在もあり、委員会の統廃合や予算委員会、など着手はしたものの、中途半端なところで停滞しているプロジェクトが多かった。

総務部は前年度において人員が1名少なくなった状態からのスタートであったが、新人の習熟度は高まりつつある。しかし、人員が2名と限られている状態なので「選択と集中」を行い、着実に日常業務をこなしつつプロジェクトの調整を行なっていきたい。

平成24年度は事業戦略会議を軸に予算と事業計画の連動を目指しつつ、目標に掲げた人材確保対策を進めていく予定である。

◎大慈園事務部

☆対象事業所：大慈弥勒園、大慈吉祥園、大慈ショートステイ、大慈デイサービスセンター、西城南あんしんすこやかセンター、大慈園、ケアハウス大慈、大慈診療所

1. ≪基本方針≫

大慈園事務部は大慈園の窓口および、請求業務、現金の管理を行う部門である。

2. ≪事務部目標≫

①マニュアルの活用

・マニュアルの設置場所の決定

→細部の業務マニュアルまで作成し、設置場所を決め運用できるまでに至った

②情報共有のシステムのブラッシュアップ

→事務総務部会で共有する項目を検討し、改善に努めた

③原価意識の推進

・現在のコスト状態の把握

→上半期において業者の選定などをしていていたが、下半期になりベテラン職員の退職に伴い引き継ぎ業務、新人育成を優先したためプロジェクトは停滞した。

④接客スキルのアップ

・事務員用マナーチェック表の作成

→作成し運用、評価を行い継続している。チェック表の内容を個々が念頭におきクリアできるよう心がけ接客を行っている。

3. ≪総評≫

上半期はどのプロジェクトもうまく進んでいたが、下半期に職員が2名退職したため、大幅な変化があり事務員の業務習熟度が著しく低下することとなった。これに対処していくためにも現場と事務の連携をより深めていきたい。

平成24年度には各個人の業務に対する習熟度の向上を期待し、自分の業務の年間、月間スケジュールを作成することで仕事の流れを把握できるようにしていきたい。